

「こどもエコすまい支援事業」との併用も可能です。

※こどもエコすまい支援事業の申請最低額20,000円

組み合わせ例

エネファーム



150,000円

+

浴室乾燥機(天井型 or 壁掛け型)



21,000円

=

補助額 171,000円

給湯省エネ：150,000円
こどもエコ：21,000円

ハイブリッド給湯器



50,000円

+

ビルトイン食器洗機



21,000円

=

補助額 71,000円

給湯省エネ：50,000円
こどもエコ：21,000円

補助金の申請は登録事業者へ

ご利用の際は、住宅省エネ支援事業者の登録事業者にお問い合わせください。



「住宅省エネ2023キャンペーン」は、家庭部門の省エネを強力に推進するため、住宅の断熱性向上や高効率給湯器の導入等の住宅の省エネ化を支援する3つの補助事業の総称です。

「給湯省エネ事業」(経済産業省)

予算：300億円

「こどもエコすまい支援事業」(国土交通省)

予算：1,500億円

「先進的窓リノベ事業」(経済産業省・環境省)

予算：1,000億円

住宅省エネ2023キャンペーン、こどもエコすまい支援事業、給湯省エネ事業の詳細は特設サイトをご覧ください。



住宅省エネ
2023キャンペーン



こどもエコすまい
支援事業



給湯
省エネ事業



LPガス 日本LPガス団体協議会

JLPGA 日本LPガス協会

一般社団法人 全国LPガス協会

おにぎり コミュニティガス
一般社団法人 日本コミュニティガス協会
Japan Community Gas Association (JCGA)

一般社団法人 JGKA 日本ガス石油機器工業会

LPガスでできる! 家庭でできる!

カーボンニュートラル CARBON NEUTRAL への 貢献

国が高効率給湯器の導入を支援します!



住宅省エネ2023キャンペーン

組み合わせで
補助金

最大約 17 万円

賢く
おトクに
CO₂ 削減



エネファーム



ハイブリッド給湯器



エコジョーズ

LPガスで家庭の省エネ化・CO₂削減

2050年カーボンニュートラルに貢献します。

政府は「2050年カーボンニュートラル」宣言を掲げ、二酸化炭素(CO₂)をはじめとした温室効果ガスの排出削減目標として、2030年度に2013年度比46%、家庭部門で66%の削減目標を掲げています。

「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」で、LPガスは2030年までに合成技術を確認して商用化、2050年に需要の全量をグリーンLPガスに代替することを目指しています。「第6次エネルギー基本計画」でもバイオLPガスや合成LPガス等の研究開発、社会実装への取り組みを後押ししています。また、業界ではカーボン・オフセットを活用した「カーボンニュートラルLPガス」の普及も進めています。

「2030年度におけるエネルギー需給の見通し」では、**家庭用高効率給湯器の普及拡大による省エネ推進**が掲げられています。風呂や湯沸かしなど「給湯」は、家庭で使われるエネルギーの**約30%**、CO₂排出量では**約25%**を占めており、重点的に省エネ化を進める必要がある分野です。



補助金を使って地球環境に貢献しよう!

高効率給湯器を導入してエコな住宅に

給湯省エネ事業 **給湯省エネ事業** **子どもエコすまい支援事業**

ハイブリッド給湯器



ガス+電気

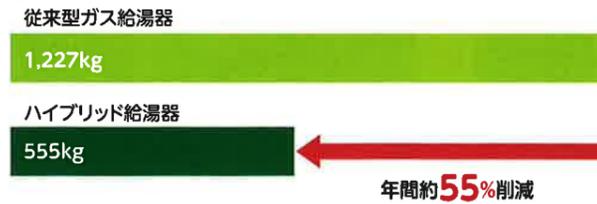
さらに高効率

補助金5万円~

ガスと電気でお湯を効率よく

ハイブリッド給湯器は、ガスと電気の2つのエネルギーを使って、効率よくお湯をつくり、湯切れの心配もありません。さらに、太陽光発電の自家消費により、CO₂削減やゼロエネルギーハウス(ZEH)の実現にも貢献します。

■ 年間CO₂排出量(東京地区・4人世帯)



エコジョーズ



排気熱を有効利用

高い省エネ性

補助金5万円~

より少ないガス消費量で湯沸かし

エコジョーズは、従来よりも効率よくお湯を沸かせる省エネ性の高い給湯器です。これまで捨てられていた排気熱を有効利用して、あらかじめ水を温めておくので、より少ないガス消費量でお湯を沸かすことができ、家庭のCO₂排出量を大幅に削減します。

■ 年間CO₂排出量(東京地区・4人世帯)



【条件】単体でのご利用はできません。対象工事で他の機器と組み合わせてご利用ください。

家庭用燃料電池 エネファーム



自宅で発電

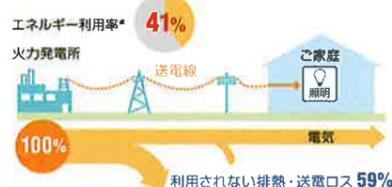
熱でお湯を沸かす

補助金15万円~

水素を使って発電+給湯

エネファームは、LPガスから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させて発電し、この時に発生する熱でお湯を沸かして給湯などに利用できます。エネルギーを有効活用するので、省エネに大きく貢献します。

■ 従来システムによる発電



■ エネファーム



※LHV(高位発熱量:燃料を燃焼させた時に生成する水蒸気の凝縮潜熱を発熱量に含めない発熱量)基準。エネファーム製造メーカー公表値より。エネファームの数値は、機種によって異なります。